

### 3 専門分野

#### 2) 小児看護学～看護の実践と統合

科目名	単位数	時間数
小児看護学	4	120
母性看護学	4	105
精神看護学	4	105
看護の実践と統合	6	135

授業科目	小児看護学概論Ⅰ	担当講師	岡田千佐子	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 子どもの成長・発達の特徴と基礎理論を理解する。					
2 発達段階別の特徴を学び、子どもの成長・発達段階に応じた健康増進のための看護を理解する。					
3 子どもを取り巻く社会環境および法律や施策について学び、多職種との連携について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習 形態
1～4	1 小児看護の特徴と理念	1) 小児看護の目ざすところ (1) 小児看護の対象 (2) 小児看護の目的と役割 2) 小児と家族の諸統計 3) 小児看護における倫理 4) 小児看護の変遷 5) 小児看護の課題			講義
5～8	2 子どもの成長・発達	1) 成長・発達とは (1) 小児看護学における発達論 2) 成長・発達の進み方(一般的原則) 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価			講義
9～24	3 発達段階別の特徴と看護	1) 新生児期の特徴と養護および看護 2) 乳児期の特徴と養護および看護 3) 幼児期の特徴と養護および看護 4) 学童期の特徴と養護および看護 6) 思春期・青年期の特徴と看護			講義
25～26	4 家族の特徴とアセスメント	1) 子どもにとっての家族とは (1) 家族とは (2) 現代家族の特徴 2) 家族アセスメント			講義
27～28	5 子どもと家族を取り巻く社会	1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種	5) 学校保健 6) 食育 7) 特別支援教育 8) 臓器移植法	講義	
29～30	筆記試験				
評価方法	レポート点30点と講義終了後の筆記試験70点で合計100点				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ②国民衛生の動向 厚生統計協会				
参考書					

授業科目	小児看護学概論Ⅱ	担当講師	秦 恵子 戸田 美紀 田村 美幸 浜屋 真由満 養護学校教諭	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響と看護の役割を理解する。 2 様々な状況に置かれている子どもと家族の看護について理解する。 3 子どもに多い事故・外傷、虐待の現状と支援について学び、子どもの安全を守る重要性を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 秦	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1) 子どもの病気の理解 2) 子どもと家族のストレス対処への支援 3) 健康問題を持つ子どもと家族への看護			講義
3～4 秦	2 入院中の子どもと家族の看護	1) 入院する子どもと家族の特徴 2) 入院生活を支える看護と継続看護			講義
5～6 秦	3 外来における子どもと家族の看護	1) 外来の特徴と看護の役割 2) 予防接種を受ける子どもの看護 3) 外来における子どもと家族の看護			講義
7～8 田村	4 在宅療養中における子どもと家族の看護	1) 地域の環境と看護の役割 2) 在宅療養中の小児と家族の看護			講義
9～10 秦	5 災害時の子どもと家族の看護	1) 被災地の環境と看護の役割 2) 被災地の小児と家族の看護			講義
11～18 戸田 (4) 養護学校 (2) 浜屋 (2)	6 障害のある子どもと家族の看護	1) 障害のある子どもと家族の特徴 (1) 障害のある子どもに関連する法制度 (2) 障害を持つ子どもの教育 (3) ネットワークと社会資源 2) 看護師の役割			講義
19～22 戸田	7 子どもの事故・外傷と看護	1) 子どもの事故の特徴とその要因 2) 事故防止と安全教育 3) おもな事故・外傷と対応 4) 子どもの救急蘇生			講義
23～28 秦	8 子どもの虐待と看護	1) 虐待の現状と対策 (1) 現状 (2) 関連する法律 2) 子どもの虐待に特徴的に見られる状況 3) 看護師の役割			講義 GW
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点 (秦 60点、戸田 40点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院				
参考書					

授業科目	小児看護学援助論 I	担当講師	小児科医師	受講時期	2年生
			伊藤 あずさ 田村 美幸 浅岡 里美	単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 子どもに多い健康障害の病態生理と治療について理解する。					
2 子どもの健康段階と成長・発達段階に応じた看護を理解する。					
3 子どもの特徴と関連づけて、子どもに出現しやすい症状と看護を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習 形態
1～8 医師	1 子どもに多い 健康障害と治療	1) 先天異常 2) 主な染色体異常 3) 先天性代謝異常症 4) 主な感染症 5) 呼吸器疾患：仮性ク룹・ク룹症 候群・急性細気管支炎 6) アレルギー疾 患：気管支喘息・アトピー性皮膚炎 7) 循 環器疾患：ASD・VSD・TOF・川崎病 8) 消化器疾患：肥厚性幽門狭窄症・腸重 積・ヒルシュスプルング病・先天性胆道閉鎖 症 9) 血液疾患：血友病・白血病 10) 悪性新生物：ウイルムス腫瘍・神経芽 腫・網膜芽腫 11) 神経・脳疾患：脳性麻 痺・髄膜炎・水頭症・進行性筋ジストロフィ ー 12) 精神疾患：広汎性発達障害			講義
9～16 伊藤	2 子どもの疾病の経過と 看護 (健康の段階別看護)	1) 慢性期にある子どもと家族の看護 (1) 慢性期の特徴と看護 (2) ネフローゼ症候群の学童期にある子 どもへの看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 (1) 急性期の特徴と看護 (2) 肺炎の幼児期にある子どもへの看護 (3) 熱性痙攣の急性期にある乳児への看護 (4) 感染症で隔離が必要な子どもへの看護			講義
17～24 田村		3) 周手術期の子どもと家族の看護 (1) 周手術期の特徴と看護 (2) 痛みのある子どもへの看護 4) 終末期にある子どもと家族の看護 (1) 終末期の特徴と看護 (2) 子どもの死の発達概念			講義 GW
25～28 浅岡 29～30	3 ハイリスク新生児の 看護 筆記試験	1) 低出生体重児の特徴と看護 2) 光線療法を受ける新生児の看護			講義
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点 (医師 30点、伊藤 30点、田村 30点、浅岡 10点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院				
参考書					

授業科目	小児看護学援助論Ⅱ	担当講師	秦 恵子	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 小児看護に必要な看護技術を習得できる。					
2 健康障害のある子どもの看護過程の展開方法を学び、発達段階に応じた看護を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習 形態
1～2	1 小児看護技術	1) 子どものフィジカルアセスメント (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体的アセスメント (4) 身体測定			講義
3～4		2) 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 (1) 子どもにとっての検査・処置体験 (2) 観察と安全・安楽な援助 (3) プレパレーション (4) 与薬、検査、			
5～6 7～8		4) 援助計画の立案、援助の準備 (1) 新生児 ・バイタルサイン、身体計測、母親への説明 (2) 幼児期 ・吸入、プレパレーション、ディストラクション			
9～12		5) 援助の実施 (1) 新生児のバイタルサイン・身体計測 (2) 幼児期の吸入			
13～29		2 健康障害のある子どもの看護過程	1) 発達段階別急性期にある子どもの看護過程 (気管支喘息・川崎病) (1) 子どもの特徴を踏まえたアセスメント (2) 不安や痛みを持つ子どもへの看護 (3) 安全に過ごすための看護 (4) 成長・発達を促す看護 (5) 家族への看護 (6) 退院・自宅療養に向けた看護		
30	筆記試験 (小児看護技術)				
評価方法	看護技術 50 点 (筆記試験 40 点、演習 10 点)、演習は評価表を用いて評価 看護過程 50 点 (個人 40 点、グループ 10 点)、看護過程評価表を用いて評価				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院 ③小児看護実習ガイド 照林社				
参考書					

授業科目	母性看護学概論	担当講師	佐々木 雅子	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
<b>【学習目標】</b> 1 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2 母性看護の対象とその特徴を理解する。 3 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷・現状を理解する。 4 女性の思春期・成熟期（非妊期）・更年期の特徴と健康課題を理解する。 5 女性の健康課題とリプロダクティブ・ヘルスケアを理解する。 6 母性看護における倫理について考える。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～4	1 母性看護の基盤となる概念	1) 母性・父性・親性 2) セクシュアリティ 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 4) ウィメンズヘルスとヘルスプロモーション 5) 母性看護の理念			講義
5～6	2 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 2) 女性・家族のライフサイクルと発達課題 3) 親役割獲得過程			講義
7～10	3 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母子保健統計からみた動向 2) 母性保健福祉に関連する主な法律 3) 母子保健施策の変遷 4) 少子化対策、母子保健施策からみた現状と課題			講義
11～14	4 女性のライフサイクル各期の特徴と健康課題	1) 女性のライフサイクル各期の心身の特徴と健康課題 (1) 思春期女性 (2) 成熟期（非妊時）女性 (3) 更年期女性 2) 女性のライフサイクル各期における看護の必要性			講義
15～26	5 リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 女性の健康課題 (1) 性感染症と予防 (2) 望まない妊娠と人工妊娠中絶 (3) 性暴力と支援 (4) 児童虐待と子育て支援 (5) ドメスティックバイオレンスと支援 2) 女性の健康課題への看護 (1) 性教育 (2) 家族計画			講義 GW
27～28	6 母性看護における倫理	1) 母性看護における生命科学に関連した倫理的課題 2) 女性の倫理に関する意思決定への援助			デバート 講義
29～30	筆記試験				
評価方法	筆記試験（100点）				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 ④厚生の指標増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
参考書	授業のなかで提示				

授業科目	母性看護学援助論 I	担当講師	浅岡 里美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理について理解する。					
2 妊娠期・分娩期・産褥期の健康障害と治療について理解する。					
3 ライフサイクル各期における性・生殖機能の健康障害と治療・看護について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～12	1 妊娠期・分娩期・産褥期の身体・心理・社会的変化	1) 妊娠期 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育と生理 (3) 妊娠期の身体・心理・社会的変化 2) 分娩期 (1) 分娩の要素 (2) 分娩の経過 (3) 産婦の身体・心理・社会的変化 3) 産褥期 (1) 産褥の生理 (2) 産褥期の身体・心理・社会的変化			講義  DVD視聴
13～14	2 新生児の生理的特徴	1) 新生児の定義 2) 新生児の適応過程			講義
15～16	3 妊娠期の健康障害と治療	1) ハイリスク妊娠 (1) ハイリスク妊娠とは (2) ハイリスク妊娠のスクリーニング 2) 妊娠と胎児の健康障害と治療 (1) 子宮外妊娠 (2) 流産 (3) 早産、切迫早産 (4) 妊娠高血圧症候群 (5) 糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病 (6) 性感染症			講義
17～18	4 分娩期の健康障害と治療	1) 胎児の異常による分娩障害 (骨盤位) 2) 胎児付属物の異常 (1) 前置胎盤 (2) 常位胎盤早期剥離 3) 分娩時の損傷 (1) 頸管裂傷 (2) 会陰裂傷 4) 分娩時異常出血 5) 産科的操作の適応と要点 (1) 分娩誘発 (2) 会陰切開 (3) 帝王切開			講義
19～20	5 産褥期の健康障害と治療	1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 産褥血栓症 4) 産後うつ病			講義
21～24	6 女性のライフサイクル各期における性・生殖機能の健康障害と治療	1) 思春期に起こりやすい健康障害と治療 (1) 月経異常・機能性出血 2) 成熟期に起こりやすい健康障害と治療 (1) 子宮内膜症 (2) 子宮筋腫 (3) 不妊症 3) 更年期・老年期に起こりやすい健康障害と治療 (1) 更年期障害 (2) 子宮がん (3) 卵巣腫瘍			講義
25～28	7 性・生殖機能に健康障害のある女性の看護	1) 生殖医療と生命倫理 出生前診断 2) 不妊治療を受ける対象の看護 3) 性・生殖機能の健康障害の化学療法・放射線療法を受ける患者の看護			講義
29～30	筆記試験				
評価方法	講義後の個人の学び (10点)、筆記試験 (90点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ ④パーフェクト実習ガイド	成人看護学 [9] 女性生殖器 母性看護学 [1] 母性看護学概論 母性看護学 [2] 母性看護学各論 母性看護 照林社	医学書院 医学書院 医学書院		

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ	担当講師	浅岡 里美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
<b>【学習目標】</b> 1 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護について理解する。 2 妊産婦・新生児に必要な看護技術を習得できる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～10	1 妊娠期における看護	1) 妊婦と胎児のアセスメント 2) 妊婦と家族の看護 3) ハイリスク妊婦の看護 4) 妊婦の健康診査 健康診査技術（子宮底・腹囲測定・ レオポルド触診法）			講義     演習
11～14	2 分娩期における看護	1) 産婦・胎児、家族のアセスメント 2) 産婦と家族の看護 3) ハイリスク産婦の看護			講義
15～20	3 新生児期における看護	1) 新生児のアセスメント (1) 出生直後～生後 24 時間の評価 (2) 生後 24 時間以降の評価 2) 新生児の看護 (1) 出生直後の看護 (2) 出生後から退院時までの看護 3) 新生児の観察技術（全身観察）			講義     演習
21～24	4 産褥期における看護	1) 褥婦のアセスメント 2) 褥婦と家族の看護 3) 帝王切開を受けた褥婦の看護 4) 褥婦の健康診査と授乳時の観察 健康診査技術（乳房観察、子宮底の観察）			講義     演習
25～28	5 妊産婦・新生児に必要な看護 技術	1) 新生児の清潔援助（沐浴） 実習場面を想定して沐浴を実施・評価			演習
29～30	筆記試験				
評価方法	筆記試験（70点） 演習時の課題（30点）				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ ③パーフェクト実習ガイド	母性看護学 母性看護学 母性看護	[1] 母性看護学概論 [2] 母性看護学各論	医学書院 医学書院	
参考書	授業のなかで提示する				



授業科目	母性看護学援助論Ⅲ	担当講師	浅岡 里美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
<b>【学習目標】</b> 正常な経過をたどる褥婦と新生児の看護が展開できる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～6	1 早期産褥期・早期新生児期にある対象の看護過程	〈初産婦 産褥3日目・生後3日〉 1) 早期産褥期にある褥婦の看護過程 (1) 産褥の生理 (自己学習) (2) 褥婦のアセスメント ①紙上事例の情報を、実習で使用する記録用紙を用いて、情報整理を行う。 ②実習で使用するアセスメント用紙を用いて褥婦のアセスメントを行う。			講義 個人
7～12		2) 早期新生児期にある新生児の看護過程 (1) 新生児の生理 (自己学習) (2) 新生児のアセスメント ①紙上事例の情報を、実習で使用する記録用紙を用いて、情報整理を行う。 ②実習で使用するアセスメント用紙を用いて新生児のアセスメントを行う。			
13～15		3) 統合アセスメント 4) 母子の看護計画立案			
評価方法	看護過程評価表による評価 (100点)				
教科書及び講義に臨むにあたってのお願い	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 ③パーフェクト実習ガイド 母性看護 照林社  ＊母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱの講義資料も参考にし、毎回の講義前に、予習をして講義にのぞみ、自己のアセスメントのできているところ、できていないところを明確にしていきましょう。実習で活用できるように知識の整理をしましょう。				
参考書	母性・小児実習ぜんぶガイド第2版 照林社 ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 医学書院 他 講義内で提示する。				

授業科目	精神看護学概論Ⅰ	担当講師	出町 佳菜美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 心のはたらきと、心の発達について理解する。 2 人格の発達、他者との関係の中で自己が形成される過程を理解する。 3 心の健康に影響を及ぼす危機とストレスの関連について理解する。 4 さまざまな危機と、危機に対応するための危機介入方法について理解する。 5 精神の健康な状態について理解し、精神障害の捉え方を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1～6	1 心のはたらきと人格の形成	1) 心のはたらき (1) 意識と認知機能(ピアジェの認知発達理論)、 (2) 感情、学習と行動 (3) 知能、心の理論など 2) 心のしくみと人格の発達 (1) 人格と気質 (2) 精神分析と精神力動理論 (3) 対象関係論 3) ライフサイクルとアイデンティティ (1) エリクソンの漸成的発達理論 (2) ボウルビーの愛着理論 (3) コフォートの自己心理学 (4) 甘え理論		講義	
7～10	2 関係のなかの人間	1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 (1) 家族の関係性(二重拘束理論) (2) 家族システム (3) 家族の感情表出 3) 人間と集団		講義	
11～14	3 精神保健の考え方	1) 精神の健康とは (1) 精神の健康と障害の3つの側面と基準 2) 健康に及ぼすストレスの影響 (1) ストレス反応 (2) 危機介入 (3) ストレスへの対処 3) 心的外傷と回復 4) 精神障害という考え方		講義	
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験100点				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院 ②舟島なをみ 看護のための人間発達学[第5版] 医学書院 ③薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ④系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院				

授業科目	精神看護学概論Ⅱ	担当講師	石川 千恵 今野 睦子 出町 佳菜美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 精神看護の目的および役割と機能について理解する。					
2 精神医療の歴史的変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について理解する。					
3 地域における精神の健康問題を学び、精神の健康を保持・増進するための精神看護を理解する。					
4 主な精神障害とその治療について理解する。					
5 精神科以外での精神看護について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 出町	1 精神看護学を学ぶ	1) 精神看護学の目的と役割 2) 心のケアと日本社会 3) 精神看護の課題			講義
3～8 今野	2 社会のなかの精神障害	1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化 4) 精神障害と社会学 5) 精神障害と法制度 (1) 精神看護における法律 ・精神保健福祉法 ・障害者総合支援法 (2) 精神科領域で必要な法律と制度			講義
9～13 出町	3 地域におけるケアと支援	1) 家庭における精神保健と精神看護 2) 学校における精神保健と精神看護 3) 職場における精神保健と精神看護			講義
14～28 石川	4 災害時のメンタルヘルスと看護	1) 災害時における心のケア 2) 精神保健福祉に関する支援システム			講義
	5 精神科疾患のあらわれ方	1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像 3) 精神障害の診断と分類 (1) 診断と疾病分類 (2) さまざまな疾患と障害 ・統合失調症・気分障害・神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(不安障害・強迫性障害・適応障害・解離性障害)・精神作用物質使用による精神および行動に障害(依存症等)・各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調(知的能力障害・発達障害・てんかん・摂食障害・パーソナリティ障害等)			講義 DVD
	6 精神科での治療	1) 精神療法 (1) 個人療法 ・認知療法・行動療法・芸術療法など (2) 集団精神療法 (3) 家族療法 2) 薬物療法 3) 電気けいれん療法 4) 環境療法・社会療法(作業療法)			講義
7 リエゾン精神看護	1) リエゾン精神看護 2) リエゾナーズの役割と活動の実際				
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点(石川50点、出町30点、今野20点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院 ③系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 ④国民衛生の動向 厚生統計協会				

授業科目	精神看護学援助論Ⅰ	担当講師	今野 睦子	受講時期	2年生
			出町 佳菜美 柳谷 広枝		単位数 (時間数)
【学習目標】					
1 入院が対象に与える影響を理解し、入院における看護の役割を理解する。 2 精神科における身体的な援助の特徴と方法を理解する。 3 主な精神障害をもつ対象の病状に応じた看護、及びその人らしい生活を支える看護を学ぶ。 4 地域で生活するために必要な支援システムを学び、精神保健医療福祉の連携・協働及び看護の役割を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～6 出町	1 入院治療と看護の展開	1) 対象にとっての入院の意味 (1) 精神科に入院する精神障害者の特徴 (2) 入院形態 2) 入院治療の目的と看護 (1) 入院のメリット、デメリット (2) 治療的環境としての病棟 3) 入院中の観察とアセスメントと看護 (1) 障害が生活に及ぼす影響 (2) 日常生活力アセスメントと日常生活援助 (3) 治療にともなう看護 4) 退院支援の展開と看護師の役割			講義 視聴
7～8 出町	2 安全を守る看護	1) 精神科におけるリスクマネジメント 2) 行動制限と看護 3) 緊急事態の対処 (1) 自殺 (2) 暴力			講義
9～10 出町	3 回復を支援する	1) 回復の意味 2) 精神科におけるリカバリー 3) 回復のためのプログラム			講義 動画 視聴
11～14 出町	4 身体をケアする	1) 精神科の治療と身体の看護 (1) 抗精神病薬の有害反応と看護 2) 健康の段階別の身体の看護 3) 身体合併症と看護			
15～22 柳谷	5 主な精神障がいをもつ対象の看護	1) 統合失調症 (急性期・回復期・慢性期) 2) 気分障害 (うつ病・双極性障害) 3) アルコール依存症 4) 強迫性障害 5) 摂食障害 6) パーソナリティ障害 7) 発達障害			講義 GW
23～28 今野	6 地域における精神看護	1) 地域における生活支援の方法 (1) 地域で精神障害者を支援する原則 (2) 生活を支えるためのシステムと社会資源 2) 地域におけるケアの方法と実際 (1) 包括型地域生活支援システム (2) アウトリーチと多職種連携 3) 地域生活支援の現状と課題 4) 精神保健医療福祉における連携と看護の役割			講義
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点 (今野 20点、出町 50点、柳谷 30点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院 ③系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 ④薄井坦子 ナースが視る病気 講談社				

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ	担当講師	柳谷 広枝	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 患者—看護師関係の相互作用の特徴を知り、関係をアセスメントする方法を習得する。 2 自己理解、他者理解の必要性を認識でき、自己を振り返る方法を習得する。 3 事例を通して 精神に障害を持つ対象の看護過程を理解する。 4 プロセスレコード、ロールプレイング演習を通して、自己の傾向と課題に気づくことができる。					
時間	主題	学習内容			学習形態
1～12	1 対象理解と対人関係を発展させる技術	1) ケアの前提 (1) 自己理解 (2) 他者理解 (3) 関係性の理解 2) ケアの原則 (1) 尊厳の尊重 (2) 互いの境界を守る (3) 応答性を保つ (4) 現実検討をする 3) ケアの方法 (接近方法と効果的な関わり) (1) そばにいないこと (2) 遊ぶこととユーモア (3) 話すこと、聞くこと (4) 自分自身であること (自己一致) 4) 患者 - 看護師関係における感情体験 (1) 転移・逆転移 (2) 感情の容器になる (共感する) (3) 感情の誤解 5) 関係の視点からみた困難事例 (1) 攻撃される (2) 拒否される (3) 同じことを繰り返される (4) 振りまわされる 6) チームダイナミクス 7) 関係をアセスメントする (1) プロセスレコードの意義目的・活用方法 (2) ロールプレイングの意義目的・活用方法 事例の関わりをRPし、プロセスレコードに再構成する 8) 自己表現の方法 (1) アサーティブトレーニング			講義
13～30	2 精神に障がいをもつ対象の看護過程	1) 統合失調症 (急性期～回復期、回復期) (1) 全体像の把握 (2) 看護の必要性の抽出 (3) 看護計画立案 2) 事例の援助場面を設定し、患者、家族、看護師役を疑似体験する 3) GW、RP 演習を通して、自己の傾向と課題を考える			RP <4h>  GW <13h>  発表 RP <5h>
評価方法	授業の参加態度、評価表による評価 (プロセスレコード 20 点 看護過程 80 点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ *その他参考文献については授業の中で提示する				

授業科目	医療安全Ⅰ	担当講師	植田 さとみ 佐藤 友美 鈴木 苑子 伊藤 喜美江	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 看護ケアを提供するための安全に関する基礎的知識を理解する。					
2 事故防止策におけるリスク感性を育てることができる。					
3 安全を守るための看護技術が実施できる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～5 植田	1 看護における安全 2 感染予防のための看護技術	1) 医療安全を学ぶ事の意義 1) スタンダードプリコーション (1) スタンダードプリコーションとは (2) 手洗い、エプロンおよびガウンの着脱 2) 滅菌と消毒 3) 感染防御のための援助 4) 無菌操作 外科的ガウンテクニック(代表者)			講義  演習 <2>
6～11 佐藤		2) 滅菌と消毒 3) 感染防御のための援助 4) 無菌操作 外科的ガウンテクニック(代表者)			演習 <2>
12～13 伊藤	3 事故防止の基盤となる考え方	1) 医療安全に関する基礎知識 (1) 有害事象 (2) 医療事故、医療過誤、医療紛争、(3) アクシデント、インシデント、ヒヤリ・ハット (4) 過失 2) 医療事故と看護業務 3) 看護事故の構造 4) 看護事故防止の考え方 5) 医療安全とコミュニケーション			演習 <4>  講義
14～16 伊藤	4 転倒・転落事故防止	1) リスクアセスメント 2) 転倒・転落・外傷が及ぼす影響 3) 転倒・転落・外傷予防			講義
17～20 鈴木	5 医療機器と看護	1) 医療機器使用時の基礎知識 (1) 生体機能代行装置 (2) 医療用治療機器 (3) 看護用具としての医療機器 2) 医療機器使用時の援助 (1) 機器の安全確認 (2) 日常生活への援助 (3) 精神的ストレス			講義
21～24 伊藤	6 看護・医療事故予防と看護実践	1) 事故分析 (1) 事故の構造 (2) 事故分析に重要なこと (3) 具体的な分析方法 (4) 事故後の対応(患者・家族・スタッフ) 2) 事故対策 (1) KYTとは (2) KYTの方法			講義  GW
25～28 伊藤	7 医療安全統合演習Ⅰ	1) 事件事例の分析と対処 *事件事例をグループで分析し対処を検討し共有する			
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点(植田:15点、佐藤:20点、鈴木:15点、伊藤:50点)				
教科書	①系統看護学講座 統合分野 看護の実践と統合 [2] 医療安全 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院				
参考書	授業の中で提示する				

授業科目	医療安全Ⅱ	担当講師	植田 さとみ	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
リスクマネジメントの概要を学習し、看護業務に伴う責任と事故防止について考えることができる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2	1 医療事故と看護業務	1) 医療事故とは 2) 看護事故とは 3) 看護事故防止の考え方 (1) 「してはならないことをしない」 一間違いによる事故を防ぐ3ステップ (2) 「すべきことをする」ために一危険の 予測に基づく事故防止の2ステップ (3) 事故発生後の患者の傷害拡大の防止 4) リスクマネジメントの考え方			講義
3～4	2 組織としての医療安全対策と看護システム	1) 組織的としての医療安全対策 (1) 組織的な医療安全管理の考え方 (2) 安全文化の醸成 (3) 組織的な医療安全管理の概要 2) 国の医療安全対策 改正法、マニュアルの整備と遵守、事故後の対応			講義
5～8	3 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 (1) 転倒・転落 (2) チューブ管理 (3) 誤薬 (4) 酸素療法 3) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 4) 医療安全とコミュニケーション			講義
	4 事故やヒヤリ・ハット報告によるリスクの把握—分析—対策体制の確立	1) 5W1H 2) SHELLモデル 3) 4M—4Eマトリックス方式 4) KYT 5) RCA			
9～14	5 医療安全統合演習Ⅱ	1) アクシデントを起こしやすい場面を通して、どのように対処したらよいか考える ※誤薬事故事例をRCA分析し発表 2) まとめ			GW
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	災害看護と国際協力	担当講師	根本 昌宏 北澤 静江 越後 早苗 嶋宮 典子	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 災害看護についての基礎的知識と必要な技術について学ぶ。 2 看護の国際協力の基礎を学び、諸外国との協力について考えることができる。					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1～8 根本	1 災害医療の基礎知識	1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 (1) 災害の種類 (2) 災害と健康障害 (3) 災害保健医療の特徴 (4) 災害と情報		講義	
	2 地元地域における防災対策	1) 冬季災害 2) 冬期の避難計画 3) 避難所の開設・運営・撤収 4) 冬季の防災対策		講義 演習	
9～10 嶋宮	3 災害看護の基礎	1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象		講義	
	4 災害サイクルに応じた看護	1) 急性期 (1) 救護所開設 (2) トリアージ・応急処置 2) 亜急性期・慢性期 (1) 避難所の生活支援 (2) 健康の維持 2) 復興期・静穏期 (1) 防災教育 (2) 被災者・遺族の心のケア		講義	
11～18 嶋宮	5 急性期の看護展開	1) 災害救護の実際 (1) 情報収集・アセスメント (2) トリアージ・応急処置		GW<4> 演習<4>	
19～28 北澤 うち2時間 越後	6 国際協力	1) 国際看護学とは 2) グローバルヘルス 3) 国際協力のしくみ (越後) 4) 文化を考慮した看護 5) 国際看護活動の展開過程 6) 開発協力と看護 7) 国際救援と看護		講義	
	7 国際看護学における倫理・ 教育・研究	1) 国際看護学における倫理 2) 国際看護学における教育 3) 国際看護学における研究			
29～30	筆記試験				
評価方法	筆記試験 (災害看護50点、国際協力35点) 演習レポート (災害看護15点)				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 ② 系統看護学講座 統合分野 看護の実践と統合 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院				
参考書	授業のなかで提示する				



授業科目	看護管理	担当講師	小林 順子	受講時期	3年生
			成田 由美子 泉 千春 大川 奈々恵	単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 マネジメントの基礎的知識を理解する。					
2 チームの一員として看護を実践するためのマネジメントを理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 小林	1 看護とマネジメント	1) 看護管理学とは 2) マネジメントとは 3) 看護におけるマネジメント			講義
3～6 成田	2 マネジメントに必要な知識と技術	1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織の調整 4) 組織と個人			講義
7～10 泉	3 ケアのマネジメント	1) ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) チーム医療 ①看護職の連携・協働 ②多職種との連携・協働 5) 看護業務の実践（日常業務のマネジメント） ①看護基準と看護手順 ②情報の活用 ③日常業務のマネジメント			講義
11～14 大川	4 看護サービスのマネジメント	1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目標達成のマネジメント 3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材のマネジメント 5) 施設・設備のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるリスクマネジメント 9) サービスの評価			講義
15	筆記試験				
評価方法	筆記試験（小林10点 成田30点 泉30点 大川30点）				
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	看護倫理	担当講師	嶋宮 典子	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
<b>【学習目標】</b> 1 看護倫理の基本的概念を理解する。 2 看護事例をとおして看護実践における倫理について考える。 1) 看護実践に潜在する倫理問題の理解と明確化ができる(の方法が理解できる)。 2) 倫理的問題の解決・改善を図るための看護の検討ができる。 3 実践例を基に自分の言葉で「看護倫理とは何か」を述べるができる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1~2	1 倫理の基礎	1) 徳とは、倫理とは 2) 文化と価値観の形成 3) 倫理と法 4) 医療と倫理 ・インフォームドコンセント ・守秘義務と個人情報保護 ・医療制度と倫理的課題 5) 専門職と職業倫理			講義
3~4	2 看護倫理の基本的概念	1) 看護の倫理原則 2) 看護実践上の倫理的概念 ・アドボカシー ・責務 ・協力 ・ケアリング 3) 倫理的判断の構造 4) 看護師の倫理綱領 ・ICN ・日本看護協会 5) 保健師助産師看護師法と倫理 ・法的処分 ・行政処分			講義
5~8	3 看護倫理の事例検討	1) 倫理行動の4要素 2) 事例検討方法 (1) 状況把握 Jonsen 臨床倫理の4分割法 (2) 倫理問題の明確化(価値観の対立) (3) 看護師としてとるべき行動の検討 3) 事例検討の実際 実習で体験した事例を用いる			講義
9~15					個人 GW
評価方法	提出物にて評価する グループ発表資料 60点 レポート40点				
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護倫理 医学書院				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	統合技術	担当講師	植田 さとみ他	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
<p>1 複数の対象に応じた看護実践のための知識・技術を習得できる。</p> <p>(1) 限られた時間の中で複数の対象の理解ができる。</p> <p>(2) 個々の対象の援助の優先順位が判断でき、さらに複数の対象の優先順位の判断ができる。</p> <p>(3) 対象の状態を観察し、必要な援助を考えることができる。</p> <p>(4) 対象の状態に合わせた援助を安全・安楽に実施できる。</p> <p>2 看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮できる。</p>					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1～2	1 導入	<p>1) オリエンテーション 授業の進め方、注意事項について説明する</p> <p>2) リーダー、メンバーの役割について</p>		講義 GW	
3～8	2 複数事例の対象理解	<p>1) 2事例の紹介</p> <p>2) 事例の全体像、立体像、生物体の必要条件を導き出す</p>		GW	
9～16	3 必要な援助を考え、行動計画立案	<p>1) 提示された2事例の場面をもとに必要な援助を考える</p> <p>(1) 対象のアセスメントから看護の必要性を導き出す</p> <p>(2) 援助の優先順位を考える</p> <p>(3) 行動計画を立てる</p> <p>2) グループ発表で優先順位の考え方を理解する</p>		GW	
17～24	4 援助の実施	<p>1) 状況に応じた援助を実施する</p> <p>(1) 技術練習</p> <p>(2) 技術評価</p> <p>①対象の状況を判断し援助を実施する</p> <p>②実施の場면을教員が評価する</p> <p>2) 実施した援助の実施評価 (SOAP) をする</p> <p>3) 実施した援助過程の自己評価をする</p>		演習	
25～28	5 チームナーシングの実施	<p>1) メンバーが、立案した計画に基づき援助を実施する</p> <p>2) リーダーが、実施の報告を受け看護師に報告する</p>		演習	
29～30	6 自己課題の明確化	<p>1) 実施しての感想や自己課題について発表し、学びの共有をする</p> <p>2) 終了後、統合実習に向けての課題と取り組みについてレポートする</p>		GW	
評価方法	レポート・実技・参加態度等を評価表を用いて評価する。				
教科書 参考書	使用するテキスト・参考書は提示しないため、各自必要な文献を探し使用すること。				